

平成二十二年度三年生・院生研究発表会発表題目 (氏名 発表題目)

〔灰谷ゼミ〕 日本語学

岡田実登己 尾道市南部域方言の東西対立について
内藤 沙紀 三次方言における可能表現について
— 五段活用動詞に接続する「ラレル」
を中心に —

堀江久美子 出雲方言における疑問の複合文末詞の意
味・機能について
松田 有美 自然会話における終助詞「ね」のバリエー
ションと意味・機能について
米田 早来 兵庫県播磨地域方言におけるテ敬語とハ
ル敬語の使用状況について

〔岸本ゼミ〕 平安文学
甲斐友紀子 『源氏物語』の女三の宮像
— 紫の上との比較を通して —

〔藤川ゼミ〕 中世文学
新井 早紀 「源承和歌口伝」研究
井上麻由子 藤原為教考
濱田 雄介 「源三位頼政集」研究
〔藤沢ゼミ〕 近世文学
太田 悠斗 伊賀鍵屋の仇討『琢磨兵林』分析

〔榎林ゼミ〕 細光早希子 滝夜叉姫の成立と変遷
山本 理紗 川上未映子「乳と卵」研究—作品全体に
みられる「生」と「性」の理論—
白神早紀子 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」考
— 「ジョバンニの切符」から —
中神 賀絵 森鷗外「山椒大夫」研究
長尾慎太郎 00年代を読む
— 「純文学」の「リアル」—
井澤 達也 「ノウラブ」— 創作・脚本の試み —
〔寺杣ゼミ〕 近現代文学
大出 奈奈 中島敦『悟浄歎異』研究
— 不安な享楽主義者・八戒の謎 —
貝原 和紗 横溝正史と「岡山編」の誕生
佐々木名穂 宮沢賢治作品の宝石について

〔近現代文学〕

〔近現代文学〕

〔近現代文学〕

〔近現代文学〕

〔近現代文学〕

立町 智恵

黒島傳治「二銭銅貨」考
— 本文校異を中心に —

宮本 奈菜

「暗夜行路」草稿4研究
— 直哉・謙作の尾道 —

渡邊 春来

星新一研究

— ショートショートにみられる登場人物名について —

〔柴ゼミ〕

〔近現代文学〕

鈴木 真美

歌詞考察

— R A D W I M P S 『オーダーメイド』から —

濱田 恵郁

絵本『くまとやまねこ』におけるモノクロ表現の魅力

〔鷹橋ゼミ〕

〔中国文学〕

梶谷 知世

『史記』孔子世家の「野合」の解釈をめぐって

赤松季未香

曹操像の変遷について

砂山祐果利

嵯康「幽憤詩」について

森田 彩樹

六朝志怪における再生説話について
— 『搜神記』を中心に —

辻口 佐彩

杜甫研究 — 妻への想いについて —

山本 綾乃

文天祥「正气歌」

— 日本における受容について —

〔光原ゼミ〕

〔創作〕

上寺加奈代

J. R. R. トールキンのエルフについて — エルフが先か、神話が先か —

栢木 希望

太古の宮島信仰 — 市杵島姫の鎮座研究 —

菊池麻衣子

不特定多数に向けた献辞の効果について

塩田 恵美

現代の妖怪の形態について

清水 郁

— 江戸時代の妖怪と比較して —
橋本紡作品における星の表現

鈴木 遼

森鷗外「青年」試論

武田真由子

伊坂幸太郎作品における「神様のレシピ」
ラーメンズ戯曲研究

長友 美聡

畠中恵作品における人と妖怪

藤田 絢香

湊かなえ『告白』における一人称の表現

藤原季実果

「落語ミステリー」に関する考察

藤原 遙香

アルバム構成に見られる工夫とその効果
— 中村中のアルバムを例に —

村上 貴則

— 中村中のアルバムを例に —

山下美由紀

『ごん狐』における稲荷信仰の表れ

〔小畑ゼミ〕

〔創作〕 〔近現代文学〕

江崎美紀子

物語で「梵書」を扱う意味と効果

小倉有紀子

雑誌研究

岸 真由美

拡がるキャラ化

玉重亜里沙

サイバーパンクにおける身体性

―マトリックス三部作を中心に―

浜野 紗綾

2000年代CMの類型と分析

前藤美菜子

物語における「魔法」について

山田 知佳

「ニキ―ある犬の物語―」に見るハンガ

リー動乱の背景

〔信木ゼミ〕

国語教育

進藤 愛香

発達障害を抱える子どもたちとの向き合

い方―『ニトロちゃん みんなと違う、

発達障害の私』を取り上げて―

藤原 理沙

状況を異にする〈他者〉のテキストに迫

る―戦争戯曲『花いちもんめ』を読む

ことを例に

【院生】

大西 華織

『夕霧書替文章』の考察

劉 楊

マンガの翻訳からみた日中両語のオノマ

トベの枠組みの差異について

楊 麗英

志賀直哉「真鶴」研究―『映山紅』所

収本文の位置付けをめぐって―